

みんなで考える
教育のつどい

出合いはタカラモノ

いつも子どもから大事なことを教えられてきた

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
TEL 06-6765-8904
FAX 06-6765-8905



いるか分教室の子どもたちに
ついて語る佐藤先生

8月29日(日)、みんなで考える教育のつどいが、たかつガーデンを会場としてオンライン併用で開催されました。午前は全体会、午後からは実践発表を持ち寄り、学び合いました。

全体会では、春の新歓教研(大障教主催)で大好評だった佐藤比呂二さん(都立特別支援学校教諭)に、「出合いはタカラモノPART2」子どもから教えられたことばかり、当事者の声に学ぶ『病弱教育ができること』のテーマで講演いただきました。国立がんセンター小児病棟にある「いるか分教室」で、厳しい病状と向き合う子どもたちの姿を語る佐藤さんのお話には、涙と感動で胸が熱くなりました。

できるはずはその日のうち

教員になって25年目に訪れた病弱教育との出合い。とにかく自分のできることを見つけようと赴いた新しい職場の春休み、子ども一人ひとりの病状の引継ぎがありました。 「いったん治療は終えたが肺に転移が見つかった」「初発のとき片足を切断。再発してもう片方も切断」：厳しい話が続く中、佐藤さんは、「なおさら楽しい生活を生み出そう」と決心します。

病室を回り、得意の handmade 意気投合。予備校のテキストの解答がなくて困っていた子には、その日のうちに解答を作って翌日に渡しま

した。「先延ばしにしない。できることはその日のうちに」という佐藤さんの言葉には、不安を抱える子どもたちの一瞬の間も大切にしようとする想いが伝わります。そして、いるか教室の様子を「病院の中とは思えないほどにぎやかで明るい教室は自分が患者であることを忘れ、自然と笑みがこぼれる」という子どもの言葉で紹介し、いるかで過ごす友だちとの楽しい時間が、つらい治療や闘病の苦しみを乗り越える力になっていくと語りました。また、親とも教師とも分ちあえない「痛み」を共有できる、かけがえのない仲間として子どもたちは支え合っていると語り、再発の苦しみを抱えながらも入院中の高校生全員に声をかけ、仲間をつないでいった高校3年生の姿を紹介しました。

どんなときにも子どもと向き合う覚悟

子どもたちは最初から笑う事ができていたわけではなく、突然見舞われた小児がんにも、絶望とショックで病気を認められなかつたり、泣きながらふさぎ込む日々を過ごしたりします。経験していない者が想像できるものではないと自覚すべきと語りながら、「病院の中の学校なんて行かない」という怒りに「病気になるてなりたくなかった」という悲しみを、「先生なんか来るな」と拒絶する姿に「自分のことを本当にわかってくれる人、誰か来て」と救いを求める心の叫びに、佐藤さんは思いを馳せます。

ムードメーカーのぐつちーは理学療法士を目指す高校2年生。医師に告げられていた余命は3か月でしたが、自分で決めた1年を超えたことを「すごいだろ」と得意げに話します。しかし、その1か月後、寝たきりになっ



お楽しみ会のVTRのひとつ。サザエさん
扮した姿に子どもたちも思わず大笑い。

「子どもたちの出合い」という当たりくじ

「病気というはずれくじを引いたと思っただけ、いるか分教室に行くようになり『素晴らしい出合い』という当たりくじをもらった」と同時に引いたと思えるようになったというつぐみちゃんの話を紹介し、「一人でも多くの子どもに当たりくじを引いたと思って

た彼から、酸素マスクごしに「皆さん、さようなら」という言葉を聞きます。その言葉を受け止めきれず、「何言ってるんだよ」と返した3日後にぐつちーへの別れの挨拶を私に託したかったはずなのに、誤魔化してしまったと佐藤さんは悔やみます。そして、どんなときにも子どもと向き合う覚悟をぐつちーが与えてくれたと語りました。

書記局の つよし

十月といえば金木犀(キンモクセイ)。私の勤務校にもあるが、今年は花をつけなかった。思い返せば、八月は異例の長雨だった。花芽の形成期の気候が影響したのかな。みなさんのお住いの近隣で金木犀は咲きましたか?

残念に感じながら、「私にとって金木犀と言えは」と言うのを考えてみた。小学生の頃は「運動会」かな。開催の時期に咲き、子ども心に「いい匂い」と感じていた。トイレの芳香剤にその香りが登場し、金木犀と言えは「トイレ」となった。そんな私も50代。四季のうつろいを意識することが増えた。今の私にとって金木犀と言えは、コスモスと並んで秋を代表する花。

話はそれるが、さだまさしの「秋桜」って歌がありますね。山口百恵が歌っていました。「薄紅(うすべに)の秋桜(コスモス)が秋の日のく」と言う歌詞が、「秋桜」を「コスモス」と読みなすことにつながったらしい。心にしみる名曲です。

金木犀の花言葉を調べると、「謙虚」「気高い人」「初恋」などが出てくる。小さな花弁なので「謙虚」、香りにつつりするから「初恋」なのかな。

金木犀は、沈(しず)花(はな)、くちなしと並ぶ「三大香木」のひとつ。勤務校には、正明横と駐輪場横にくちなしがあり、六月になると甘い香りで迎えてくれる。またまた、話はそれるが「くちなし」と言えはやっぱり渡哲也。「くちなしの白(しろ)い花(はな)」がすぐに思い浮かぶ。沈(しず)花(はな)は松任谷由美。「春(はる)よ(よ)来(来)い」の歌詞で、「いと(いと)し(し)面影(おもかげ)の沈(しず)花(はな)」と出てくる。

気候変動とSDGsのことを書くつもりだったが、紙面がなくなった・・・ (久)

中途視覚障害者の自立を守るため 本科保健医療科の拙速な募集停止の撤回を求めて 緊急要請署名提出

署名を手交する
「将来を考える会」のメンバー



10月19日、府庁別館で「大阪府立北視覚支援学校本科保健医療科の拙速な募集停止撤回を求める緊急要請署名」の手交をおこないました。「大阪北視覚支援学校の将来を考える会」(以下、「将来を考える会」と大障教執行部からあわせて6人が出席しました。

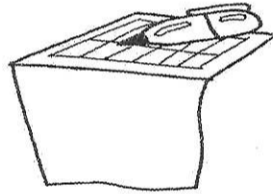
9月13日の校長会にて本科保健医療科の募集停止をおこなうことが明らかとなり、視覚障害者の

の当事者や現場の声を無視して私たちのねがいに背を向けるものです(詳細は大障教ニュース10月12日号参照)。

このことを受けて、10月8日に結成された「将来を考える会」と大障教で急遽署名にとり組み、10日あまりで、北視覚支援学校の教職員署名75筆(教職員の84%)、同窓会からの団体点字署名、大障教全43分会からの団体署名が寄せられました。

参加者からは、「中学卒で中途視覚障害になった方が経済自立のために、本科3年・専攻科3年の計6年間かかるのはあまりにも期間が長い」「入学相談の希望者がいる。その点でも社会のセーフティネットとして本科保健医療科の存在意義がなくなったとは考えていない」「今回の署名で『募集停止は拙速である』というご賛同を多くの方にいただいた。ぜひ再検討のうえで撤回をお願いしたい」と切実な思いを支援教育課に訴えました。

現在、各職場で本件の署名(知事宛て・教育長宛て)にとりくんでいます。署名を集約して引き続き提出しますので、みなさんからの幅広いご支援ご協力をお願いいたします。



(表面よりつづき)

【みんなで考える教育のつどい

参加者の感想】

- ・「子どもに寄り添える教師になりたい」という思い、それは教員をめざす誰もが、初めに抱いた思いではないかと思います。今、学校ではそれができなくさせられています。改めて、子どもを真ん中に据えた、子どものための学校づくりを考えたいと思います。
- ・子ども達の姿、ことばから、いるか教室の存在の大きさ、存在そのものの価値を初めて知ることができました。
- ・学校とは笑顔になれるところ、そのことの大切さを改めて教えてもらいました。

大障教定期大会 発言ダイジェスト(その4)

組合の値打ちを発信し仲間を増やそう

泉南支援分会 奥野代議員

泉南分会は、今年の春に組合員さん7人が異動されました。大変な事になったと思っ
ていましたが、3人の組合員の方が異動で来られ、5人の方が新加入されて、結果とし

て1人プラスになりました。新加入のうちの一人は、新規採用で本校に赴任する前に、本校で病休代替講師をされて
いました。組合が病休代替講師の長期休暇中の任用継続を

要求し実現した姿を見て、組合の大切さを実感していただきたくと思います。組合加入の前進のために大切なことは、やはり日頃からの職場づくりだと思えます。青年部主催のバレーボール大会、ソフトボール大会、分会のボウリング大会や飲み会は学部を越えて仲良くなれる絶好の機会です。現在はコロナ禍のため、横のつながりが作れず苦勞しています。しかし、できるだけ組合



るのも組合の魅力です。校内でも世の中でも「お互いさまやん」という助け合いの気持ちを忘れずにぼちぼちやっていきたいと思えます。

障害児教育の拡充と憲法擁護をつらぬこう

堺支援学校大手前分会 西田代議員

自宅を整理していますと、私が加入して間もない1987年度府障教定期大会議案書が出てきました。30年以上も前の議案書と今年度の議案書を対比してみますと、表現の違いはあっても根底にある理念は共通しています。全教・大障教に結集し、ぶれること

のない大障教運動の値打ちに改めて確信を持つことができました。

特別支援学校の設置基準策定に向けた動きにも大きな影響を与えています。

当時の大会スローガンにある「父母・府民と固く連帯し、発達障害をめざした障害児教育を推進しよう」という精神は、今年度のスローガンにある「子ども参加、父母共同の学校づくり」や「実効性のある『設置基準』策定などの教育条件整備」という文言に引き継がれています。長年わたる私たちの運動が、障害児教育の拡充という障害児・者、関係者の願いを結び、現在の

また、私たちの運動は、憲法の改悪を許さず、核兵器廃絶の世論を作り出すことにも貢献してきました。引き続き、憲法改悪を許さず、維新府政による「教育こわし」を打開するため、府民・国民的な共同をさらに広げましょう。来る国政選挙では、教職員の思想信条の自由と政治的立場の自由を保障し、政治革新をめざし積極的に参政権を行使しましょう。

